

2021年FIA-F4選手権シリーズ第1大会 参戦報告書

HFDP事務局 阿部 正和

2021年FIA-F4選手権シリーズ

HFDP参加選手レポート

第1大会(第1戦/第2戦) 参戦レポート

5月3日(月)~4日(火)、富士スピードウェイ(静岡県)で2021年FIA-F4選手権シリーズ第1大会(第1戦、第2戦)が開催されました。HFDP(ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5小出峻(HFDP/SRS/コチラレーシング。1999年10月26日生まれ。21歳)、#6木村偉織(HFDP/SRS/コチラレーシング。1999年6月22日。21歳)、#7太田格之進(HFDP/SRS/コチラレーシング。1999年6月18日生まれ。21歳)の3人が参戦しました。#7太田は3年目、#5小出は2年目、#6木村は1年目のFIA-F4フルシーズン参戦です。


デビュー戦で木村が優勝。
■公式予選(30分間) : 天候/晴れ 路面/ドライ


週末の練習走行の過程で#7太田がモノコックを破損し、走行続行困難と判断したチームは急遽スペアカーを取り寄せ、部品の移植作業を月曜午前3時まで行って車検を受け、ようやく午前8時15分からの公式予選に間に合わせる事ができました。公式予選は晴天の下で始まりました。30分間のセッションの結果、ベストタイム順で予選結果が決まる第1戦では#6木村が2番手、#5小出が3番手、#7太田が6番手につけ、セカンドベストタイム順で結果が決まる第2戦では#5

小出が1番手、#6木村が3番手、#7太田が5番手となりました。しかし予選終了後、第1戦で予選1位だった選手が複数回にわたる4輪脱輪のペナルティによりグリッド降格裁定を受けたため、順位が繰り上がって#6木村がポールポジションを獲得しました。

第1戦公式予選結果

予選2位 #6 木村 偉織 1分45秒470(繰り上がりでポールポジション)
 予選3位 #5 小出 峻 1分45秒479(繰り上がりで2番手スタート)
 予選6位 #7 太田 格之進 1分45秒766(繰り上がりで5番手スタート)

第2戦公式予選結果(第1戦公式予選のセカンドタイム順に決定)

予選1位 #5 小出 峻 1分45秒500
 予選3位 #6 木村 偉織 1分45秒567
 予選5位 #7 太田 格之進 1分45秒813

■第1戦決勝レース（14周）：天候/晴れ 路面/ドライ

31台のマシンがダミーグリッドに着き、13時20分にフォーメーションラップが始まりました。レースのスタート合図の瞬間、ポールポジションの#6 木村はわずかに加速が鈍り、隣からスタートした#5 小出にアウト側から並ばれましたが、1コーナーでインを取ってポジションを守りレースが始まりました。後方、5番手からスタートした#7 太田は前車に攻めかかり、オープニングラップのヘアピンでオーバーテイク、4番手へ順位を上げました。その後#7 太田は後続車と激しく4番手争いを始めましたが徐々に後続車を引き離して3番手の選手に近づいていきました。



レース中盤には#6 木村を先頭に#5 小出、#7 太田を含む4台が1グループを構成し、レースをリードしながらトップ争いを始めました。その中でトップの#6 木村は2番手の#5 小出との間隔を確保してしっかりとポジションを守りました。

レース終盤、#5 小出は#6 木村との間隔を縮めオーバーラップをするタイミングを探っていましたが、最終ラップ前13周目の1コーナーでわずかにブレーキをミス、一瞬ホイールをロックさせてしまったことで間隔が開き、後続車に攻め寄せられることとなりました。この結果、安全マージンを得た#6 木村はそのまま最終ラップをミスなくまとめ、優勝のチェッカーフラッグを受けました。2位には攻められながらもポジションを守り切った#5 小出が続き、#7 太田も4位でフィニッシュしました。



【FIA-F4 選手権シリーズ第1戦・レース結果】

#6 木村 偉織 決勝1位 (24分43秒516 ベストタイム 1分45秒463)
#5 小出 峻 決勝2位 (24分44秒226 ベストタイム 1分45秒567)
#7 太田 格之進 決勝3位 (24分45秒412 ベストタイム 1分45秒507)

■第2戦決勝レース（14周）：天候/晴れ 路面/ドライ



4日(火)も、富士スピードウェイは前日同様の晴天に恵まれました。午前8時15分、シリーズ第2戦のフォーメーションラップが始まりました。レースのスタート合図の瞬間、ポールポジションの#5 小出はうまく加速を始めましたが2番手選手の出足が良く、1コーナー進入ではインを奪われる形になり、その結果#5 小出はクロスラインを狙おうとアウトに進路を振りました。一方、3番手からスタートした#6 木村はその背後に迫ってアウト側から1コーナーにターンインしようとしたが、ブレーキをミスして減速しきれず、#5 小出に追突してしまいました。

#5 小出ははじき飛ばされる形でスピンアウト、#6 木村も体勢を取り直している間に大きく順位を下げました。この混乱の隙に5番手からスタートした#7 太田が順位を上げ、2番手で1コーナーを走り抜けてレースが始まりました。しかし#7 太田は2周目の1コーナーで後続車のアタックを受けて順位を3番手に下げました。コースに復帰した#6 木村は7番手、#5 小出は20番手で走行を開始しましたが#6 木村には危険行為判定が下り、ドライブスルーペナルティが科せられ順位を大きく落とすこととなりました。



3番手の#7 太田はポジションを取り戻そうと3周目の1コーナーで前走車に迫りましたが、ブレーキのミスからホイールをロックさせて姿勢を崩し後続車と接触して順位を大きく落としてしまいました。#7 太田はこの行為に対して黒白旗の提示を受けました。走行を続行しようとした#7 太田は、タイヤに生じたフラットスポットのため激しい振動を感じ、5周走行後ピットイン、タイヤを交換して29番手でレースに復帰しました。

一方オープニングラップのスピンアウトで順位を落とした#5 小出はその後ファステストラップを記録しながらオーバーテイクを続け順位を回復していきました。最終的に#5 小出は7番手まで順位を上げ、チェッカーフラッグ、シリーズポイントを獲得してレースを終えました。#6 木村は25位、#7 太田は31位でレースを完走しました。

シリーズポイントランキングではドライバー部門で#6 木村がトップから15点差の25点で3番手、#5 小出が24点で5番手、#7 太田が12点で8番手、チーム部門でHFDPは9点差の31点で2番手につけてシリーズ第2戦を終えました。

【FIA-F4 選手権シリーズ第2戦・レース結果】

#5 小出 峻 決勝7位 (24分53秒216 ベストタイム 1分45秒263=ファステストラップ)

#6 木村 偉織 決勝25位 (25分38秒078 ベストタイム 1分46秒259)

#7 太田 格之進 決勝31位 (25分57秒001 ベストタイム 1分46秒950)

(#6は他車への衝突違反によりドライビングスルーペナルティを受けた)

■2021FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2021 シーズン第2戦終了時点)

3番手 #6 木村 偉織 25点

5番手 #5 小出 峻 24点

8番手 #7 太田 格之進 12点

(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点、)

■2021FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2021 シーズン第2戦終了時点)

2番手 HFDP 31点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント：#5 HFDP/SRS/コチラレーシング 小出 峻



第1戦のレースペースは悪くありませんでしたが、全員ペースが接近していたので容易に抜くことはできず後ろも来るし前も追いかけなければならなくて、やるだけのことはやりましたが最後の方で自分がミスもして、結局2位で終わりました。

第2戦は、昨日のコンディションからクルマのバランスを考えて少しセッティングも変更して臨み

ました。1コーナーで接触はしてしまっただけですけど、そこからの追い上げのペースは悪くなくてファステストも獲れたし結果は残らなかったとはいえ、自分としては悔しいことは悔しいけど次につながったかなと思います。



●ドライバーズコメント：#6 HFDP/SRS/コチラレーシング 木村 偉織



少し不安な気持ちを持ってレースウィークを迎えましたが、速さは発揮できたし優勝もして、自分の中では自信が付いたレースでした。レース後半リヤタイヤが少しつらいかなという感触はありましたがうまいこと前へトラクションをかけていく走り方でレースをまとめられました。その反面、第2戦ではレースペースが良いのはわかっていたので、そんなに無理に攻めなくてもポディウムには届く

という自信はあったんですけど、自分のどこかに気持ちの焦りがあって、結果的にチームの同士討ちという最悪の結果を招いてしまい深く反省をしています。タイヤが暖まっていなかったり前にクルマがいてエアロのバランスが変わったりという要因があったと思います。今後に向けては今回自分の悪かったことをしっかり分析して見つけ直し気持ちを切り替えて一から組み立てていきたいと思



●ドライバーズコメント：#7 HFDP/SRS/コチラレーシング 太田 格之進



金曜にクルマを壊してしまいましたがメカニックさんたちが朝方まで頑張ってくれて出走できたので感謝しています。予選については心配もありましたが出走できるだけありがたい話でした。走り出したら何の問題もなく、満足というわけではありませんがそれなりのポジションにつけました。第1戦では、少しエンジンが回っていないためか、どうしてもスリップで前に離されてしまう傾向があ

ってオーバーテイクは難しく、なんとかインフィールドで間を詰めて対抗しました。第2戦は、1コーナーで守りに入ったところ、フロントがロックしてしまい止まりきれず接触してしまいました。相手の選手がそのまま走り続けてくれたから良かったです。その後、振動が激しくなってしまう、クルマに悪いなと思ってピットインしました。金曜にクルマを壊してしまっただけから流れが悪くなってしまったので、鈴鹿では練習からしっかりと走りたいと思います。

